



THE NEWS TOKYO NODAI

東京農業大学

世田谷キャンパス/大学本部/大学院・応用生物科学部
地域環境科学部・国際食料情報学部・短期大学部
厚木キャンパス/大学院・農学部
オホーツクキャンパス/大学院・生物産業学部



編集/東京農業大学学長室

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

その先の未来に向けて

学長 高野克己



新入生の皆さん入学おめでとう。

東京農大創立125周年目の年、この記念する節目の年に入学された皆さんを心から歓迎します。本学は1891年に、徳川育英会を母体とした私立育英農学校として設置されました。現在は、学生約13000人と2000の研究室を誇る世界にも類のない農学系総合大学として発展し、国内では東京農大、海外ではNODAIの愛称で親しまれています。

創設者の榎本武揚公(1836-1908年)は、徳川幕府の留学生としてオランダでヨーロッパの先進科学技術と国際法を学んだ近代日本創生時の真の国際人でした。農商務大臣・逓信(郵政)大臣・文部大臣・外務大臣などを務め、また当時のロシアと千島・樺太交換条約をまとめて強国の帝政ロシアの脅威を取り除き、今ある日本の姿の

基礎を築いた人物でもあります。オランダ留学にて、列強の中わが国が近代国家としての位置を守るためには、国力の一翼を担う農業の重要性を強く認識して、本学を設立しました。

榎本公は「学びて後足らざるを知る」の言葉を座右の銘とされ、学問の重要性と学び続けることの大切さを説き、実践されました。常に学問は進化し、最新の知識もすぐに陳腐化することを見抜いたのです。我々が生きている現在では、科学技術や社会の発展と変化のスピードは榎本公の時代以上に加速しており、「学びて後足らざるを知る」の重要性はさらに増しています。皆さんが学ぶ知識量は年々増加し、その内容は高度化・複雑化しています。学ぶことは単に知識を蓄えることではなく、知識を知恵に変換することです。

初代大学長の横井時敬先生は学びの基本を「実学主義」とし、机上の学問でなく、自然や社会の中にある真実を自分の五感で会得することを本学の教育研究の理念としました。

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

「国際センター」建設予定地として飛躍することを目指し、「東京農業大学国際センター」を世田谷キャンパスに建設予定です。本センターは、海外

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ皆さんは、あらゆる真実と可能性を学び、大いに「農のこころ」を育んでください。そして世界中の「生きた学問」を支えてください。さあ、新入生の皆さんの中には未知の世界が広がっています。学んでも尽きることはない知の世界に向かって、一步一步着実に足を進めましょう。その先の未来に向かって!

創立125周年 記念 式典祝賀会のお知らせ

東京農大は、明治期に通信、文部、外務、農商務大臣を歴任した子爵榎本武揚公が徳川育英会を母体とした私立育英農学校として創設して以来、今年で創立125周年を迎えました。「実学主義」に培われ「農のこころ」が育まれた卒業生は16万余名を数え、日本のみならず、世界の各地域のリーダーとして活躍しています。

日時:平成28年5月21日(土)
11時~
場所:東京農業大学 世田谷キャンパス
※ホームカミングデー物産即売
会企画は10時から開始予定

「国際センター」建設予定地として飛躍することを目指し、「東京農業大学国際センター」を世田谷キャンパスに建設予定です。本センターは、海外

「国際センター」建設予定地として飛躍することを目指し、「東京農業大学国際センター」を世田谷キャンパスに建設予定です。本センターは、海外

「国際センター」建設予定地として飛躍することを目指し、「東京農業大学国際センター」を世田谷キャンパスに建設予定です。本センターは、海外

「国際センター」建設予定地として飛躍することを目指し、「東京農業大学国際センター」を世田谷キャンパスに建設予定です。本センターは、海外



協定校学生との交流や国際的学術会議、校友や保護者も利用できる施設も備え、世界に農学を発信する場にふさわしいデザインで、その建設費用の一部を皆様からの募金を仰ぐ計画としております。本事業の趣意にご賛同を頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご購入いただきますようご案内いたします。

大学院で専門分野能力と人間力の向上を!

東京農大の大学院は農学研究科と生物産業学研究所の2研究科を有し、世田谷・厚木・オホツクの3キャンパスでは、将来に生きる各専門分野における能力と人間力の向上を目指し、日々「実学主義」が実践されています。社会からの期待が高まる大学院で、より良い世界を作るために学ぼうとする皆さんを歓迎します。

地球規模の課題を、ともに

農学研究科委員長 志和地 弘信



世界の人口が90億人に達すると予測されている2050年までには、大学院農学研究科の学生および教員が取り組む研究は喫緊の課題になって



近年、主に遺伝子導入・改変を目的として、鳥類においてさまざまな発生の工学的手法が開発されているが、遺伝子導入は細胞数の少ない(発生の進んでいない)輸卵管内の卵子を用いることで効率的に行うことができる。

大学院農学研究科は日本人の学生だけでなく、留学生、国際協力機構の研修生達と共に多様な課題に取り組む教育・研究を行っています。農学系の総合的な教育機関として高い評価を得ています。

今後、地球規模の課題に取り組みながら、環境を守り、人間と地球に生きる生物と共存しながら食料生産を実現するためには、農業のさらなる高度化が不可欠であり、それを支える農学・生命科学の発展が求められています。農学研究科は、私たち「グローバル・ゴーズ」に取り組む人材を求めています。

効利用するための手段の一つとして、人工の素材を用いたウズラ胚の培養法を検討している。鳥類の卵殻の機能には、希少鳥類の卵を有するが、常備することは困難である。そのため、人工の素材を用いて卵殻の機能を代替させる手法が検討されているが、完全には成功していない。私達は、希少鳥類の卵を有

いると考えられます。人類が取り組む課題について国連では、2015年9月に行われた「持続可能な開発サミット」で、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択しました。そこでは2030年までに達成すべき17項目の持続可能な開発目標(SDGs)、通称「グローバル」

において研究が進められているのが現状である。代理卵殻法を実施する場合、ニワトリやウズラなどの家禽においては代理卵殻が比較的容易に入手でき

るが、常備することは困難である。そのため、人工の素材を用いて卵殻の機能を代替させる手法が検討されているが、完全には成功していない。私達は、希少鳥類の卵を有

鳥類の人工卵殻の開発

農学部長 小川 博

鳥類の卵殻の機能には、人工の素材を用いて卵殻の機能を代替させる手法が検討されているが、完全には成功していない。私達は、希少鳥類の卵を有

基礎力を養い、研究力強化

生物産業学研究所委員長 塩本 明弘



しかし「研究」はそれとは異なります。研究を開始するきっかけは教員からの指導によるものなど、必ずしも自発的ではなくとも、進めるうちに次第に面白く感じ、さらに好奇心がわくのではないでしょうか。体を動かして自ら研究を遂行することはもちろんのこと、初めての現象を目の当たりにする瞬間が稀に起こるからです。教科書や参考書にも書いていない、授業でも聞いたことのない現象を初めて見ることが、衝撃的で感動的であり、それが社会や人の役に立つものであればなおさらです。そして、それを味わえるのはその調査

大学院奨学金拡充

「学びて後足らざるを知る」奨学金

平成28年度から、さらなる大学院研究の高度化と、研究者の後継者養成を目的とした125周年記念「学びて後足らざるを知る」奨学金制度がスタートします。名称の由来は本学創設者であり明治期きつての

「食と農」の博物館だより

「食と農」の博物館は、3月20日から、森林総合科学科の創設70周年を記念した企画展「日本の森林―人と森との関わり―」を開催中。同学科の前身となる旧・林学科が千葉県原市に産声を上げたのは、1947(昭和22)年のこと。戦後、荒廃した国土に一刻も早く豊かな緑を復元するために、また社会復興に必要な木材資源の安定供給のために、その教育・研究がスタートした。創設70周年を迎える本年、国土の7割を森林が占める我が国において人と森がどのように関わってきたか、様々な分野から多角的に振り返る。5月25日まで。また6月1日からは本学創立125周年記念特別展として、「しあわせのものさし」ビーター・メンツェル写真展」を予定している。「TIME」や「ナショナルジオグラフィック」など、科学・環境分野において国際的に活躍中の報道写真家メンツェル氏は、世界各国を回りその平均的な家庭、ごく普通の人々の暮らしを取材してきた。被写体となった家族たちは、家中すべての持ち



(C) 2005 Peter Menzel / Hungry Planet: What the World Eats

農学分野の研究を加速

ゲノム解析とセンターの役割

本学の生物資源ゲノム解析センターは、国内の農学系大学、研究機関の中でも充実した設備と利用環境を提供している。今日の生物を扱う研究では、ゲノム情報の利用が高まっている。一方、農学分野の研究では、地球上の様々な生物を研究対象とするが、かつてそれらへのゲノム情報を自由に手に入れることは困難であった。

本センターは平成20年度に開設以来、先生方の研究に活用いただき、その状況を变えつつある。例えば、動物では絶滅したニホンカワウソ、日本で家畜化されたウズラや、遺伝子を調べたウズラのマウスを利用した哺乳類の発生メカニズムの研究、植物では、イネのような主要作物に始まりコケまでも扱う。また、発酵、バイオエ

ネルギー、バイオリメデイエーションなど産業利用にも注目が集まる微生物など、あらゆる生物のゲノム情報解析に携わっている。昨年は、本学の先端研究で行われた農大のシンボルであるダイコンのゲノム解析にも貢献した。

本センターは世田谷キャンパスに位置するが、全学組織として、オホーツクキャンパス、厚木キャンパスも含め、学内15学科が利用している。平成25年度からは、文科省による共同利用・共同研究拠点の認定をうける国内の国公私立大学、研究機関に所属する研究者と学内の先生方との共同研究を積極的に支援し、

農学分野の研究を加速するための活動も始まった。このような実績を踏まえ、さらなるゲノム研究の支援を目指し、平成28年度より、「生物資源ゲノム解析センター」はこれまでの総合研究所内の組織から独立し、新たなステップを踏み出すことになる。

新型高速シーケンサーの装置・技術は、国内外に普及しつつあるが、それを生かすにはノウハウが必要である。農大が農学ゲノム解析の拠点となるべく、今後も先生方の研究に「一層ご活用いただきたい。」

(生物資源ゲノム解析センター長 矢嶋俊介)

包括連携協定締結

さらなる充実と特色ある環境作りのため、また地域社会への貢献のため、包括連携協定を締結し各業界や団体との連携を深めている。

日比谷アメニスと 平成28年3月2日

「アメニティスケープクリエーション」快速空間の創造」を企業スロガンにかかげる株式会社日比谷アメニスは、室内施工、屋上・壁面・室内緑化、緑地環境のメンテナンス・リニューアルなど、みどりに関わる事業を展開し、CSR活動にも積極的に取り組む社会貢献に寄与している。

グループ会社(株式会社日比谷花壇等)には多

くの卒業生が就職しており、本協定により造園に係る専門的な知識や技術の教育研究への還元、助言、支援、ならびに専門技術者の人材育成への協力が期待される。

日本香堂と

平成27年12月21日

和の香りの専門メーカーである株式会社日本香堂は最近ではフランス、アメリカ、ブラジル、アメルセン、国連本部などで、香道を紹介するイベントを開催し世界中から集まるさまざまな原料の生産、香気物質の分析などのさらなる充実に期待される。

本協定により、本学食品香料学における教育研究への支援や助言、香料原料の生産、香気物質の分析などのさらなる充実に期待される。

ウェザーニューズと

平成27年12月11日

本学は、農業支援を通じて国際協力活動を展開している。「農業」において、気候・気象は重要であり、地球規模での気候変動による環境変化、自然災害、水不足など、現代社会は人間の生存をも脅かす課題に直面している。

本協定は、相互の活動への支援を通じた国際協力活動やさまざまな環境問題の解決に貢献することを目的とし包括連携協定を締結した。

日本食研と

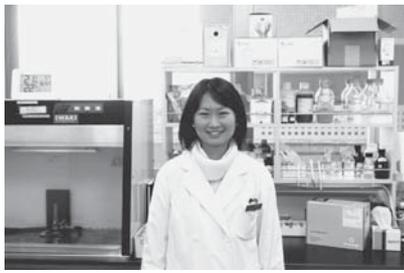
平成27年12月8日

本学と日本食研ホールディングス株式会社は、農業及び関連産業の活性化に貢献しうる活動を展開すると共に、農業開発への支援を通じた国際協力活動やさまざまな環境問題の解決に貢献することを目的とし包括連携協定を締結した。

活躍する卒業生

Chance, Challenge, Change

農学科助教 キム オッキョン



韓国の大邱(デグ)市にある慶北大学に通っていた私は、韓国地方大学の発展や優秀な人材の育成を目的とする「地方大学革新力量強化事業」の一環で、1年間の交換学生として日本に留学するChanceをつかんだ。大学2

年生から日本語を学んでいたの、漠然と日本への留学の夢を抱いていたが、まさか交換留学生に選ばれるとは思ってもみなかった。そして留学先の大学選びで私の希望は叶った。所属していた農生物学科の先生が学位を取得した東京農大への留学に運よく受け入れてくれたのだ。

2005年4月、人生初の海外留学というChallengeが始まった。植物ウイルスに興味を持っていてから国際農業開発学科の熱帯作物保護学研究室に所属した。学年を問わず、熱心に楽

しく実験している学生達や実験室あるいは農場などで学生達とともに研究に取り組んでいる先生方の姿は、食と農について研究する大学らしいエネルギーあふれる雰囲気包まれていた。いつもドアを開けておくことで学生達が相談に来やすい環境を作ってくれる細かい配慮には感動した。

東京農大で得たものの中で一番はと聞かれたら、断然「恩師」の存在、つまり指導教員との出会いと答えるだろう。私の研究力や教育観に最も影響を与えたロールモデルでもある。東京農大と

農大タイ事務所開設 ASEANの拠点に

3月17日、タイ国タマサート大学ランジットキャンパスで、東京農業大学タイ事務所の開所セレモニーが実施され、タマサート大学科学技術学部Dean学部長(写真右)、在タイ日本国大使館一等書記官の他、現地学生を含めて約100人が出席し、調印式、テープカット、志和地弘信教授(写真左)による特別講演が行われた。



当事務所はタマサート大学ランジットキャンパス内に設置され、タイ国をはじめ、ASEAN諸国からの留学

株主会社ウェザー

を目的としている。

生支援の拠点地となり、ASEAN諸国への教育、研究拠点地になることを目指し、今後の東京農大生の利用も期待される。農大初の海外事務所設立は、前タマサート大副学長のソムチャイ教授をはじめ、多くの本学卒業生の協力のもと実現した。

世界大学クロカン 清水が金・銀



陸上競技部の清水萌衣乃(醸造科学科2年)写真(醸造科学科2年)写真が3月12日の国内大会)が3月12日にイタリアで行われた第20回世界大学クロスカントリー選手権大会(6kmの部)に日本代表として出場した。清水は、大学入学後、関東代表として出場し、全日本代表として出場し、そして東京農大の代表として

イタリアの地を全力で走ると意気込んだ通り、個人銀メダル、団体金メダルという見事な成績をおさめた。

3000m障害のトラック種目を得意とする清水は、大学入学後、関東代表として出場し、全日本代表として出場し、そして東京農大の代表として

三月場所で初土俵



小柳亮太(森林総合科学科H28卒)大相撲時津風部屋に入門した小柳(写真右)は三月場所に三段目付け出しで初土俵を踏んだ。相撲部時代は日々の努力と

仲間との切磋琢磨の成果で、世界相撲選手権大会重量級優勝、東日本学生相撲選手権大会優勝など数々のタイトルを獲得した。184cm、165kgの恵まれた体格の農大健児は大相撲の頂点を目指す。

オホーツク野球部 井口・樋越がプロ野球へ



2015プロ野球ドラフト会議でオホーツク硬式野球部の井口和朋(地域産業経営学科H28卒)写真(⑤)が北海道日本ハムファイターズから

井口は在学中にユニバーシアード競技大会日本代表に選出されるなど、大学リーグ戦通算21勝を挙げ、エース投手として活躍した。日本ハムでは2軍キャンプスタートから、紅白戦やオープン戦での実力が首脳陣に認められ1軍に昇格。

樋越は大学リーグ戦通算打率3割9厘、本塁打5本と強打の捕手として活躍し、キャプテンとしてチームを牽引した。育成選手でのプロ生活のスタートであり、一日も早い支配下選手登録が期待される。

リオ五輪へゴング!



3月24日〜4月2日に中国・河北省遷安市で開催されるボクシング・リオデジャネイロオリンピックアジア・オセアニア予選に、日本代表としてバンナム級に森坂嵐(国際バイオビジネス学科2年)写真、ライト級に成松大介(H24食料環境経済学科卒/現自衛隊体育学校)が出場する。2016年夏季オリンピック本大会への出場権を獲得できる上位3位以上をかけた二人の農大健児のファイトに注目だ。

農大農場紀行

宮古亜熱帯農場 (沖縄県宮古島市)



んみゃーち(宮古方言で「ようこそ」) 宮古農場へ!



ばり(宮古方言で「畑」)では日々実学主義!

宮古亜熱帯農場は東京農大が有する5つの農場(他に網走寒冷地農場、伊勢原農場、富士農場、奥多摩演習林)のひとつで、国内最南端の農大施設である。農場には管理・研究棟、研究者および学生宿泊室、栽培ハウスがあり、これらの管理施設の北方約2kmに面積約9.5haの圃場がある。宮古島の年平均気温は23.3℃、年平均湿度は79%、年降水量は約2000mmで、高温多湿な亜熱帯海洋性気候に属する。宮古島はサンゴ礁が隆起して形成された島であるため、低平な石灰岩台地(最高標高は113m)が主体で、その台地にはサンゴ礁由来の母材からなるアルカリ性土壌が広く分布する。また台風の影響でもあり、統計的に年平均3.7個が襲来する。同農場は、熱帯・亜熱帯農業に関する実証的研究と実学的教育を行うことを目的とし、これらの研究・教育は、地域の農業発展や環境保全を視野に入れた、地域との協力で行われている。JICAの研修生の受け入れ、青年海外協力隊の派遣前補完研修など国際的な農業開発協力を携わる人材の育成にも貢献している。

積約9.5haの圃場がある。宮古島の年平均気温は23.3℃、年平均湿度は79%、年降水量は約2000mmで、高温多湿な亜熱帯海洋性気候に属する。宮古島はサンゴ礁が隆起して形成された島であるため、低平な石灰岩台地(最高標高は113m)が主体で、その台地にはサンゴ礁由来の母材からなるアルカリ性土壌が広く分布する。また台風の影響でもあり、統計的に年平均3.7個が襲来する。同農場は、熱帯・亜熱帯農業に関する実証的研究と実学的教育を行うことを目的とし、これらの研究・教育は、地域の農業発展や環境保全を視野に入れた、地域との協力で行われている。JICAの研修生の受け入れ、青年海外協力隊の派遣前補完研修など国際的な農業開発協力を携わる人材の育成にも貢献している。

また、国際農業開発学